

3.

京都と大阪の境 北摂のポンポン山 福寿草 ハイク

早春の里山 春を呼ぶ福寿草 2005.3.31. by Mutsu Nakanishi

3.1. 善峰寺 からポンポン山へ

3.2. 福寿草の 自生地 (大原野森林公園 保護区)へ



春の訪れを告げる福寿草 ポンポン山北尾根で 2005.3.31.



ポンポン山 北西尾根 福寿草の自生地で 2005.3.31.

今年は2・3月の寒波で梅・桜だけでなく春の訪れが遅い。

例年 3月の末には山郷で咲く「カタクリ」の花 もまだまだ。

昨年は 「冷たい風に体を揺らすカタクリの花」を見たし、今年は是非「山の斜面で春を告げる福寿草」を見に行こうと・・・。

「福寿草」

旧暦の新年(2月)頃 雪が消えた里山の落葉樹林などに生える多年草で、雪解けとともに顔を出して黄金色の花を咲かせる。

日が当たって黄金色に光り輝く姿はまるで金杯。

華やかな花であるが、日が当たると開き、日がかげると閉じてしまう感受性の高い花でもある。

「元日草」(がんじつそう)や「朔日草」「報春花」などたくさんの別名を持つ。

江戸時代からめでたい花として広く栽培され、街でも鉢植えの福寿草を見かける。

でも、今は自生地が少なく 自然の中に咲く 福寿草はなかなか見られない。

関西での福寿草の自生地は鈴鹿の藤原岳・霊仙岳そして吉野が有名。

でも 今年には雪が深く山の斜面で咲き出すのはこれからと聞く。

そんな折に 京都と大阪の境「ポンポン山」の北の尾根筋に広がる広大な森林公園保護区の谷筋の斜面に知る人ぞ知る「福寿草」の群落がある。「例年 雪の消え始めた2月末より花をつけ、山が低いので、今年も もうぎりぎりだけれとも今も花をつけている」と聞く。また、場所もまだあまり公開されておらず、ぼんやり尾根筋しか判らず。

インターネットで調べると保護区の管理事務所又は自生地にこの時期だけ常駐監視している管理人がおり、その人に許可届を出して、許可を得ないと自生地に入れないという。

また、いつもの出たとこ勝負ですが、「ポンポン山の北西の尾根 降りていったら判る やろ」と・・・

「福寿草の群落」見たさに3月31日 ポンポン山のハイクにてかけました。

3.1. 善峰寺から ポンポン山へ

ポンポン山というと関西人以外ではなじみがない。

京都から大阪へ流れる淀川の西側 京都西山から北攝連山へと連なる山々の中にあり、京都と大阪の境の山。 このポンポン山から南西へ伸びる枝尾根の端に天王山があり、また、ポンポン山の稜線に連なる尾根の中腹に西国 20 番の札所善峰寺がある

関西ではポピュラーなハイキングコースである。

今日は 善峰寺からポンポン山に登って頂上から北に伸びる尾根を下って、福寿草の自生地を探す予定。

時間短縮のため、善峰寺までバスで行って、久しぶりに善峰寺に寄って、そこから東海道自然歩道となっている山道をポンポン山へ登って行く。気楽な京都の田舎 里山 WALK。

ゆっくり歩いて 頂上まで 約2時間。 インターネットの書き込みによると頂上から北の亀岡側への尾根を少し下ってこぶを2つほど乗り越した北斜面の東の谷間に福寿草の自生地があるとの情報。

ぼんぼん山のカタクリの自生地の話は聞いたことあるのですが、福寿草の自生地は全く以外で、情報はそれだけで、ゆきあたりばったりのウォークである。



向日市小塩の集落からポンポン山・小塩山の山並み
(中央 山並みの中腹に西国 20 番札所善峰寺がみえる)

もう 随分昔 頂上から北に下りて 脇道に迷い込んで 交通の便もなくとぼとぼ電車のある淀川沿いまで何時間かいやになるほど歩いた経験がある。どうもそのあたりである。道も交通の便も変わっていると思うが、帰りの道考えておかないとえらいめに会うと思う。

でも 風来坊 どうにかなるやろう・・・である。 ゆっくり歩いて自生地を探しても3時間ほどのハイキング。



西国 33ヶ所 20 番札所 善峰寺 2005.3.31.

もう何年ぶりにだるだろうか 有に 15 年を越えている。久しぶりで阪急電車東向日町の駅に降り立つ。東向日町の駅から見ると南北に並ぶ連山の中腹に善峰寺があり、ポンポン山はこの連山の後ろ側に連なっている。山の中腹うっそうとした杉木立の中に善峰寺。

平日の午前中で、境内には数組のお参りやハイカーの人だけで、静かなもの。久しぶりに横に 40m も伸びたあの天然記念物「遊龍の松」も健在。観音堂横の枝垂桜が一本だけ満開の花を咲かし、思いもかけない落ち着いた花見。

まだ 芽吹いていない鈍い緑の山をバックに花と松と瓦屋根が素晴らしいコントラスト。

静かに咲く寺の桜 絵

がきから出てきたような春の景色でした。



善峰寺 観音堂横の枝垂桜

善峰寺の山門前からつづら折れで山の斜面を登る「東海道自然歩道」(と言っても車が一台通れる舗装道路)を登る。善峰寺の寺域でまっすぐに伸びた杉の大木が立ち並び、その途切れ途切れに竹林が覗く。山中分け入ったという感じがするのは やっぱり善峰寺の大きさか・・・。



善峰寺からポンポン山登り口へと登って行く東海道自然歩道の道 2003.3.31.

それにしても人っ子ひとり通らぬ「東海道自然歩道」を舗装してどうすねん・・・」と思い始めた峠を越えると不意に人家が数軒ある隠れ里。

ほとんどどの地図にも集落が出ていませんが、「杉谷」集落。ここから峠を下って尾根の下の谷筋をさらに奥の大原野出灰の集落に道が続いているので、

この道はハイキング道路でなく生活道路である。集落を出たところがポンポン山の登り口で、出灰への舗装道路と分かれ、整備された谷筋の道がづく。

このハイキング道も東海道自然歩道あるがよく整備された林の中の山道である。



杉谷 ポンポン山の登り口



杉谷の集落



杉谷から ポンポン山の縦走路に登る谷筋の道 2005.3.31.

40分程木々の中の谷筋をつめると、視界の開ける尾根の上にする。

ここからポンポン山への尾根道 ポンポン山から本山寺へと北摂の山の縦走路がづく。

また灌木のトンネルが続く尾根道が頂上までづく。ほとんど視界は開けず、時折、周辺の尾根筋が見えるが、周囲の山はまだ芽吹きしておらず冬色。何か緑の中に灰色の霞みかけたようなそれはそれで美しい早春の景色である。



ぽんぽん山縦走路で 2005.3.31.



釈迦岳からの縦走路出会い

縦走路を 15 分ほどで大山崎・天王山から釈迦岳を経てポンポン山へ登ってくる縦走路との分岐点をすぎるともうポンポン山頂もまじかである。ポツポツとハイキングの人たちに出会う。

縦走路のすぐ北斜面に降りるブッシュに縄が張り巡らしてある。前に聞いたことのあるポンポン山のカタクリの群生地と教えてもらった。

「今年の今ごろはもう 斜面一面がカタクリの花だった」と話されるのですが、カタクリの花のかけらも見えず。

よく見ると見覚えのあるカタクリの葉っぱがポツポツと枯葉の中から顔を出している。

これでは花をつけるまで、まだ相当時間がかかる。

カタクリの花の咲きようで、今年の寒波の影響が直接的にわかる。地球環境破壊の影響か・・・直接知っている現実で思い知らされる。でも 今福寿草が見られるのもこのせいでもあるが・・・



ポンポン山頂上周辺の北斜面 カタクリの自生地とまだ葉だけ顔出しているカタクリ

元の縦走路に戻ってすぐポンポン山のピークへの登り。頂上はちょっとした広場で木々がないが、周りあまり高低差がなく、ブッシュが広がっているので、あまり展望は利かない。数組の熟年組が弁当を広げている。



679m ポンポン山 頂上と 頂上からの展望 2005.3.31.

握り飯をほうばりながら、地図を広げて、北へ伸びる福寿草が咲く西尾根を調べる。

頂上から北側 出灰への道が見えるが、案内板などない。

歩いてきた道も東海道自然歩道の道の案内板ばかりで、北側の尾根を下った京都大原野森林公園については

不明である。

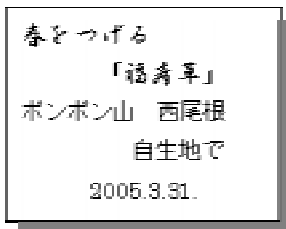
弁当を食べている中年の山なれた女性に聞くと「尾根筋降りてリョウブの丘を乗り越えたところ。マムシの看板があるすぐ下で、道に縄が張ってある。それが目印。福寿草今もみられるでしょう」と教えてもらうが、一般の人にはあまり知られてないようだ。

「そんな花咲いているところこの下にあるのですか・・・」と聞かれるが、「行ってみないと判らん」としかいいようなし。

ハイカーの多くは東西に伸びる尾根を西へ行くと高槻の本山寺 東へ行くと向日町の善峰寺・小塩 北は京都の人しかあまり行かなかったが、北側が大原野森林公園として道が整備され、北へ下る人も多くなったようである。しかし、北の方へ出ると交通の便悪く、昔えらい目にあったことがあるのでおいそれとは誘えなかった。また、「福寿草」や「カタクリ」の自生地が頂上周辺の北斜面にあるようですが、大阪・京都からすぐの便利なこの山で、沢山の人で荒らされるのを怖れてか まだ、一般には知らされていないようだ。

半信半疑で登ってきたのですが、確実に福寿草が咲いているとの情報に北へまっすぐ 尾根を降りることにする。

3.2. 福寿草の自生地 (大原野森林公園 保護区)へ



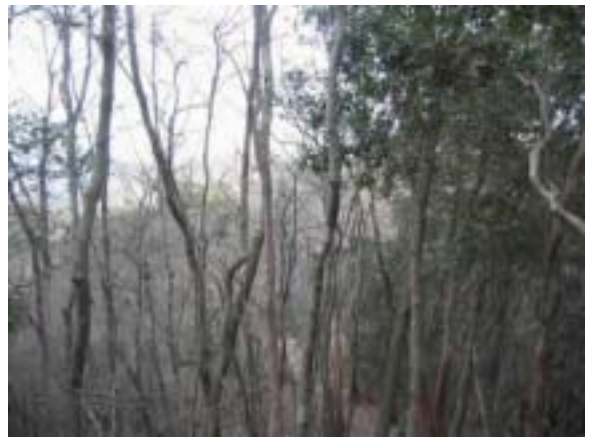
ボンボン山の福寿草 自生地 2005.3.31.

早々に頂上を切り上げて、「出灰」への道を下って行く。少し下ったところで、出灰への道と分岐。標識はないが尾根筋にしっかりした道がついている。

(急に標識がなくなるので ちょっと不安になるが、もう少し下ると大原野森林公園域にはいり、標識がでてくる) 木々の間から見える山々をながめながらいくつかコブを乗り越えると15分ほどでリョウブの丘への標識。

急に木々がきれて、西側が開けると北攝の山並みが幾重にも重なって素晴らしい。

正面にひときわ高く均整の取れた姿が北攝の盟主「剣尾山」か・・・



西尾根を北へ下る

また、東側奥には深い谷越しに、小塩山 遠くに愛宕山がみえる。このリョウブの丘を乗り越えた北側東斜面が谷に落ち込むあたりが、福寿草の自生地。目印を見落とさないようにと気を配りながら進むが、中々見つからない。



ボンボン山 西尾根より 北攝の山々 2005.3.31.

リョウビの丘から 10 分ほどと聞きましたが、目印見つけられず。どんどん下って行くうちに大原野森林公園保護区の標識もでてくる。

「ツツジの丘・森の案内所」への標識も出てきた。見落とした事判ったが、とにかくツツジの丘まで行って引き返すことにする。30 分ほどのロス。下まで降りてもバスの便悪いので引き返しても同じであるし、下の森の案内所で福寿草の自生地を教えてもらって再度登るのも癪である。



小塩山 背後遠くに愛宕山がかすんでいた

もう一度 目印を見落とさないように左右を注意しながら登り直す。

頂上で出会った人が降りてきたが、福寿草自生地への入り口 やっぱりよう見つけなかったと。

リョウビの丘が見え出したあたりから、東の谷への脇道がないか注意しながら歩く。

全くそれらしき標識がないが、一本東の谷への道がある。

ふっと 道の反対側の脇の木に「マムシ注意」の紙がくくられている。 立て札と違ってこれだ。



ブッシュの中 福寿草自生地への道 2005.3.31.

ここに違いないとブッシュの中へ入って 50m ほど、元の道が見えなくなったあたりで、前方に縄を張った遊歩道が谷筋へ降りているのが見える。

これは すぐ近くに、尾根筋の道があるが、教えてもらわないと全く判らない。

自生地が荒らされるのを防ぐ方法はこれか・・・と。

少し下ると赤いヤッケを着た監視員が二人。ここで保護区立ち入り許可の書類をもらって、其の場で届けを書いて、すぐ下の自生地へ降りる。誰もいない。 独り占めである。



ポンポン山 西尾根 北東斜面の福寿草自生地 2005.3.31.

枯葉に覆われた急斜面にへばりつくように緑の葉と黄色い花が咲いていました。
厳しい山の北斜面で長い冬を耐えて耐えて 一気に喜びをあらわしている
黄色と緑が本当に鮮やかで美しい。

この時期

「カタクリ」 が 「北風に体を張って立ち向かって咲いている」一途な姿、
「福寿草」 は 「太陽の恵みを眼一杯 手を広げて 受けている」そんな元気一杯の姿

そんな感じを昨年見に行った「カタクリ」の花と対比しながら見入っていました。
鉢植えでひとつだけ見ているはこんなイメージの広がりが出てこない。自然の姿に引かれるところ。
本当に明るい花
でも 福寿草も日がかけるとすぐ 花びらを閉じる強い感受性ももちあわせているという。

残念ながら、時期的には遅いので、写真などで見る残雪から顔を出す光景は見られませんでした。深い谷筋の斜面にモノトーンの枯葉の山肌に黄色の花が緑の葉っぱと共に点々と散って、谷筋一杯に明るさが満ちて 春到来を告げていました。
これが 福寿草と云われる所以かも知れません。

春をつげる
「福寿草」
ボンボン山 西尾根
自生地で
2005.3.31.





小さな自生地で広く知られると確かにいっぺんに消えてしまいそう。

無理からぬが、口コミだけで、知った人たちだけが入れる事にちょっと後ろめたさも感じています。

関西では 鈴鹿か吉野に行かないと見られないと思っていましたが、こんなに近くの山に自生地があったとは 本当にびっくりでした。

半信半疑で出かけましたが、まっ黄色の花びらを精一杯に広げ、春を告げていました。

おそらくこの自生地 シーズンが終わると、自生地への道も取り払って、大原野森林公園保護区として山の中に埋没させる。自生地を守るためには仕方がないのでしょうか、自然を保護するむつかしさ 厳しさをも見たように思います。

訪れる人の制限はやむなしでしょうが、うしろめたさもちょっぴり。

誰もいない自生地 もうシーズンも終わりの花が見れる最後でしたが、ゆっくりと楽しむ事が出来た。

いつまで こんな Goo な環境で見られるのか心配ですが、できるだけさわらずに残してほしい。虫のいい注文です。

元の尾根道へ戻って 再度ボンボン山頂上から杉谷・善峰寺を経て向日町へと戻る。山の中腹 善峰寺・三鈷寺の境内からは朝かすんでよく見えなかった京都・淀川流域の市街地が眼下に広がって素晴らしい眺めでした。

春の訪れを告げる福寿草 その自生地を訪れる事ができて 満足のボンボン山ハイクでした。



向日町より ボンボン山の山並

2005.3.31.夕 京都・淀川流域の市街地を眺めながら

Mutsu Nakanishi



三鈷寺境内から 京都・淀川流域 市街地の眺め 2005.3.31.夕 善峰寺・三鈷寺境内より、

京都と大阪の境 北摂のボンボン山 福寿草ハイク 【完】